

プレスリリース

札幌商工会議所 定期景気調査（8月）の結果について
生成 AI を活用している企業は 59.5%、昨年度から 20 ポイント増加
課題は社内ルールや利用環境の整備、人材育成

札幌商工会議所では、会員企業を対象に毎月各業界の業況等を調査し、景況把握に活用しております。
この度、2026年8月分調査を取りまとめましたので、報道・記事掲載についてご協力をお願いいたします。

<調査概要>

○調査内容：【毎月調査】 ①8月の業況と先行き見通し
【付帯調査】 ②生成 AI の活用状況

○調査期間：2026年8月10日（月）～8月24日（月）

○調査対象：札幌商工会議所会員企業のうち764社

○有効回答数：303社

○調査結果概要：

①8月の業況と先行き見通し：全産業合計の業況DIは▲17.2と、前月から6.9ポイント悪化。先行き見通しDIは▲22.1と悪化の見込み。

②生成 AI の活用状況

- ・生成 AI の活用状況について、「全社的に活用」（19.6%）、「特定部門で活用」（20.3%）、「希望者のみ活用」（19.6%）をあわせて「活用している」が59.5%と、半数を超える割合となった。2025年11月の前回調査から20ポイント増加と大幅に「活用している」の割合が上昇した。
- ・生成 AI を活用（活用を検討）している業務では、「文書作成・要約」が84.6%と最も多かった。次いで、「情報収集・アイデア出し」（57.1%）、「データ集計・分析」（38.3%）となった。
- ・「文書作成・要約」といった生成 AI が得意とする定型業務分野での活用が定着しているとともに、「デザイン・画像生成」の割合が増加、「データ集計・分析」も3割を超えるなど、様々な分野で生成 AI の活用が進んでいることがうかがえる。
- ・生成 AI 活用による効果は、「業務時間の削減・作業効率化」が59.6%と最も多くなった。
- ・生成 AI の利用に関する社内ルール・ガイドラインの整備状況について、「既存の社内規定で対応」が最も多い37.8%の一方で、38.4%が社内ルール・ガイドラインを整備できていない。中小企業が参考にしやすいような態に即した平易な利用基準の提示などの支援策が求められている。
- ・生成 AI 活用にあたっての課題は、「活用できる業務の洗い出し、活用方法の検討」が55.1%と最も多く、次いで、「生成 AI の活用に向けた社員教育、社内ルールの制定」（44.6%）、「生成 AI の活用を主導・推進する人材の育成・確保」（37.6%）であった。

※調査結果詳細は別添資料をご参照ください。

札幌商工会議所定期景気調査（過去の当所調査結果をご覧ください）

https://www.sapporo-cci.or.jp/web/purpose/10/details/post_51.html



日本商工会議所 LOBO 調査 <https://cci-lobo.jcci.or.jp/>

日本商工会議所では、各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を全国ベースで毎月調査する「商工会議所 LOBO 調査」を実施し、その結果を集計・公表しています。

※LOBOとは「CCI（CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY）－QUICK SURVEY SYSTEM OF LOCAL BUSINESS OUTLOOK」（商工会議所早期景気観測）からとった略称。



<本件担当>

札幌商工会議所 企画広報部 企画課 TEL：011-231-1360 E-mail：kikaku@sapporo-cci.or.jp